

〔論 文〕

自尊感情と友人とのネットワーク:女子学生を対象にして¹⁾

Self-Esteem and Friendship Networks in Female College Students

吉 山 尚 裕²⁾

Naohiro Yoshiyama

ABSTRACT

The purpose of this study was to explore the correlations of trait self-esteem, real size of, and subjective size of interpersonal networks with same-sex peers and opposite-sex friends. Respondents were two hundred and twenty-five female college students(mean age=19.7). Results showed (1)self-esteem correlated with the degree to which respondents felt accepted by same-sex peers, (2)self-esteem was paralleled with the number of close same-sex peers, and (3)high self-esteem respondents have a close relationship with opposite-sex friends, that is, a lover or a boyfriend. These results suggest that self-esteem system functions as a subjective index(sociometer) that monitors the adequacy of interpersonal relationships.

Key words: self-esteem, size of friendship networks, sociometer hypothesis

問 題

本研究は、交友関係を個人を基点としたネットワークとしてとらえ、その広さ(友人の数)と深さ(親密度)が、「友人たちに受容されている感覚」や「自尊感情」とどのように関連しているのかを探索的に検討したものである。

自尊感情(self-esteem)は、人間行動に関する様々な理論の基礎概念であり、これまで膨大な数の研究が行われてきた(e.g.,Rosenberg,1965,1986;Baumeister,1998)。自尊感情はまた、『自己概念と結びついている自己の価値と能力の感覚—感情—である』(遠藤辰雄,1992)という定義が示すように、従来、自らの資質や能力に対する自己評価に基づく感情として把握されてきた。しかし、最近の自己認知研究から、自己がどのようなものとして経験されるかは個人内の閉じた系の中で進行するのではなく、他者との関係性や相互作用が重要な役割を果たしていることが明らかになるにつれ、自尊感情は自己と周囲の人々との関係の適切性に基づく感情としてとらえ直され

1) 本稿は、九州心理学会第60回大会(1999年)で報告したデータを再分析し、まとめ直したものである。調査の実施には、山口県立大学の甲原定房助教授にご協力いただいた。記して感謝する。

2) 大分県立芸術文化短期大学コミュニケーション学科(E-mail:yoshiya@oita-pjc.ac.jp)

ようとしている（遠藤由美,1999）。

そうした理論の一つに、近年、Leary & Downs（1995）が提起した「ソシオメーター仮説」（sociometer hypothesis）をあげることができる。この仮説は、自尊感情が自己と他者の関係を把握し、関係維持がどの程度うまくいっているかをモニターする主観的指標（計量器）として機能していると主張する。Leary, Tambor, Terdal, & Downs（1995）は、大学生を対象とした実験や調査から、仲間からの受容度に関する評定が自尊感情と強い相関を示すこと、個人的な理由で集団から排除されると自尊感情が低下すること、特性自尊感情が人々から受容（または排斥）されていると感じる程度と強い相関があることを示し、これらをソシオメーター仮説を支持する結果としている。このソシオメーター仮説とその研究結果から、自尊感情と友人関係との関連を推論すれば、「自尊感情」と「自己を受容してくれる友人の数に関する主観的評価」（以下、サポートサイズ³⁾と呼ぶ）の間には、正の相関が観察されると予測される。本研究では、大学生女子の友人関係（同性・異性関係）を通して、まずこの予測を確かめる。次いで本研究では、「自尊感情」と「サポートサイズ」という個人内変数の相関の背景に、現実にはどのような交友関係が存在しているのかを探索的に検討する。

本研究が、個人がとり結ぶ現実の交友関係を把握しようとするのは、次の2つの理由からである。一つは、自尊感情が対人関係のモニター機能をもっていると主張するためには、自尊感情と友人からの受容感との相関を示すだけでは十分でないと考えるからである。自尊感情と友人からの受容感との相関を得ても、それは個人内の心理的変数間の相関に過ぎない。そこに現実（外）の交友関係の姿が反映されていなければ、自尊感情が対人関係の良好さや適切さをモニターする主観的指標として機能しているとはいえないだろう。したがって、自尊感情とサポートサイズの相関の背景にどのような交友関係が存在しているのかを明らかにする必要がある。

もう一つの理由は、本研究では、交友関係の広さや親密度が、友人たちに受容されているという感覚（サポートサイズ）に影響を与え、結果として自尊感情の変動をもたらすと考えるからである。この予測は、自尊感情を自己評価に基づく感情としてではなく、周囲の人々との関係性の適切さの感覚に基づく感情としてとらえるソシオメーター仮説の仮定や、最近の研究動向と合致するものである。そうした変数間の関係を明らかにしていくためにも、自尊感情とサポートサイズに加え、現実の交友関係を把握する必要があるだろう。

以上のように、本研究では、交友関係を個人を基点とした対人的ネットワークとしてとらえ、その基本的な要素である友人の数と親密度が、自尊感情やサポートサイズとどのように関連しているか検討する。具体的には、回答者が実際に交流している友人の数（以下、交友サイズと呼ぶ）を“最近1ヶ月”の範囲でとらえ、それぞれの友人との親密度を把握することにした。

なお、一口に友人といっても、同性の友人と異性の友人では性格が異なっている（Buhrmester & Furman, 1986）。そこで本研究では、同性の友人と異性の友人を区別して交友サイズやサポートサイズを把握する。さらに異性関係の場合は、恋人やボーイフレンド（BF）と呼べるような親密な関係が重要な意味をもっている。自尊感情は、恋人・BFといった親密な異性の有無と関連しているのだろうか。本研究は、こうした点も併せて検討する。

3) 「サポート」という概念は、ソーシャル・サポート研究(e.g., 浦, 1992)では友人関係だけを意味するものではないが、本稿では、「自己を受容してくれる同性・異性の友人」のネットワークを指す用語として限定的に用いる。

方 法

調査対象者

大分県内にある2つの短期大学の学生男女180人と山口県内にある4年制大学の学生男女77人の計257人。調査時期は1998年9～11月。調査は、「青年の人間関係の調査」として、講義時間中に無記名方式で実施された。これらの回答者のうち、人数が少ない男子15人、自尊感情尺度とソーシャル・サポート尺度の回答に欠損のある女子17人のデータを分析から除いたため、分析対象者は225人（19～23歳、平均年齢19.7歳）となった。

質問紙

質問紙は、以下の内容から構成されている。フェイスシートに自分の性別と年齢を記入してもらった後、質問への回答を求めた。

自尊感情尺度 Rosenberg (1965)の自尊感情尺度（山本・松井・山成,1982）を用いた。評定は、「あてはまる(5)～あてはまらない(1)」の5段階評定を用いた。

サポートサイズ 浦・南・稲葉(1989)のソーシャル・サポート尺度を学生向けに変更して用いた（10項目）。各項目にあてはまる友だちがどのくらいいるか、“同性の友だち”と“異性の友だち”の場合に分け、「かなりの数いる(5)～まったくいない(1)」の5段階評定を求めた。項目の主旨は、Table 1に示されている。

交友サイズ（友人の数と親密度） 「最近1ヶ月の間に、遊んだり、食事をしたり、電話で個人的な話をするなど行動を共にした友だち（同性でも、異性でもよい）」を思い浮かべ、それらの友だちのイニシャルをリストするように求めた（上限15人）。そして、それぞれの友だちの性別と親密度（「非常に親しい(3)」「かなり親しい(2)」「まあ親しい(1)」）を回答してもらった。交友サイズは、イニシャルの数を性別、親密度別にカウントして求めた。

恋人やボーイフレンドの有無 家族以外で「最も親しい異性」を一人思い浮かべてもらい、その異性が、恋人・ボーイフレンド・片想いの相手・親友・友だち・その他のうち、どの言葉に一番よくあてはまるか選択してもらった。

結 果

1. 予備分析

自尊感情尺度に主成分分析を行った結果、第1因子の寄与率は39.5%であったのに対し、第2因子の寄与率は13.8%と低く、単因子構造であることが確認された。ソーシャル・サポート尺度は、同性・異性の場合に分けて主成分分析を行った。その結果、第1因子、第2因子の寄与率は、同性で53.0%と10.4%、異性で72.7%と6.4%となり、単因子構造であることが確認された。よって両尺度とも評定値を単純加算して得点化することにした。次に回答者の交友関係について概観しておこう。

交友サイズについて、リストされた友人の数は平均8.96人 ($SD=3.58$)。分布では、「1～5人」18.2%、「6～10人」48.0%、「11～15人」33.8%。うち同性の友人数は平均6.82人 ($SD=2.68$)、レンジ1-13人、分布は「5～8人」の範囲で52.4% (118人) とほぼ半数を占めた。次に、異性の友人

数は平均2.14人 ($SD=2.06$)、レンジ0-9人、分布は「1~3人」の範囲で49.3% (111人) を占めたが、「0人(なし)」も27.1% (61人) みられた。予想されることだが、交友サイズは同性のほうが異性より大きかった ($t(224)=22.16, p<.001$)。またサポートサイズの得点は、同性32.97 ($SD=5.58$)、異性21.37 ($SD=8.58$) で同性が異性よりも高かった ($t(224)=21.47, p<.001$)。

2. 自尊感情とサポートサイズ

まず、自尊感情とサポートサイズの関連について検討する。Table 1には、自尊感情の高低(平均値31.66で切半)からみたサポートサイズ得点を示している。尺度値をみると、同性関係では、自尊感情高群と低群の間に有意差が認められ ($t(223)=4.14, p<.001$)、高群が低群よりも、自分を受容してくれる同性の友人数(サポートサイズ)を多く評価していた($r=.275, p<.001$)。異性関係については、高群が低群よりも異性の友人数を多く評価する傾向がみられたが ($t(223)=1.67, p<.10$)、同性関係ほど明確ではなかった ($r=.195, p<.01$)。これは項目ごとに両群の評定値を比較した結果にも現れている。同性関係では、Q5を除くすべての項目に有意差が認められたのに対し、異性関係で有意水準に達した項目はQ6とQ10の2項目だけだった。このように自尊感情とサポートサイズの相関は、異性関係よりも同性関係に認められた。

3. 自尊感情と交友サイズ

Table 2には、自尊感情の高低からみた交友サイズを示している。同性関係では、友人の総数に差は認められなかったが ($t(223)=0.50, ns$)、親密度別にみると、高群が低群よりも“非常に親しい友だち”の数が多かった ($t(222)=2.14, p<.05$)。また、群間で“非常に親しい友だち”が「4人以上いる者」(平均値3.16人で折半)の割合を比較したところ、高群が低群よりもその割合が高かった(高群52/120人(43.3%) vs 低群33/104人(31.7%): $\chi^2(1)=3.18, p<.07$)。これらの結果は、自尊感情が交流している友人の総数ではなく、その中に含まれる親密度の高い友人の数と関連していることを示している。

異性関係の場合も、高群が低群よりも“非常に親しい友だち”⁴⁾の数が多かったが ($t(219)=3.69, p<.001$)、人数平均が両群とも1人に満たないことから、この結果は、親密な異性関係の有無を反映したものと考えられる。そこで、恋人やBFのいる者の割合を比較したところ、高群が低群よりもその割合が高かった(高群59/121人(48.8%) vs 低群37/104人(35.6%): $\chi^2(1)=3.97, p<.05$)。これらの結果は、自尊感情が親密な異性の有無とも関連していることを示している。なお、自尊感情と交友サイズの相関係数を算出した結果、同性・異性関係とも、自尊感情は親密度の高い友人(非常に親しい友だち)の数とは正の相関をもっていたが(同性 $r=.153, p<.05$; 異性 $r=.298, p<.001$)、親密度の低い友人の数とは無相関であった。

4) “非常に親しい(異性の)友だち”のイニシャルをリストした回答者の人数分布(%)は、「0人」(なし) 52.9%、「1人」 32.6%で、「2人以上」は14.5%に過ぎなかった。よって異性関係の場合、群間の差は、多い少ないというより、いるいないの差である。さらにリスト「しなかった者」(0人)と「した者」(1人以上)で、恋人・BFの有無を調べたところ、いる割合はそれぞれ14.5%(17/117人)、74.0%(77/104人)であった($\chi^2(1)=79.77, p<.001$)。したがって異性の“非常に親しい友だち”とは、その多くが恋人やBFと呼べるような関係を意味すると推論される。

自尊感情と友人とのネットワーク：女子学生を対象にして

Table 1 自尊感情の高低からみたサポートサイズの平均評定

項目の主旨	自尊感情		t 値
	高 群	低 群	
＜同性関係＞			
Q1.折りあることに行き来する友だち	3.43 (0.76)	3.16 (0.68)	2.73**
Q2.一緒に会って、とても楽しく時を過ごせる友だち	3.86 (0.77)	3.47 (0.68)	3.98***
Q3.もめごとが起こった時、気安く相談に行ける友だち	3.29 (0.75)	2.94 (0.72)	3.52**
Q4.さびしい時に電話をしたり、訪ねていっておしゃべりできる友だち	3.51 (0.81)	3.07 (0.77)	4.22***
Q5.お金が必要になったとき、気がねなく借りられる友だち	2.71 (0.81)	2.56 (0.77)	1.44
Q6.あなたのことをかってくれたり、高く評価してくれる友だち	3.45 (0.75)	3.13 (0.60)	3.58***
Q7.心配事や不安があるときに親身に助言してくれる友だち	3.47 (0.78)	3.13 (0.70)	3.39**
Q8.家族以外で100%信用できる友だち	2.99 (0.81)	2.77 (0.80)	2.06*
Q9.買い物につきあってくれる友だち	3.84 (0.83)	3.56 (0.76)	2.67**
Q10.レジャーや映画に行く友だち	3.79 (0.79)	3.58 (0.77)	2.06*
尺度値	34.35 (5.51)	31.36 (5.24)	4.14***
＜異性関係＞			
Q1.折りあることに行き来する友だち	2.22 (1.05)	2.00 (0.93)	1.66+
Q2.一緒に会って、とても楽しく時を過ごせる友だち	2.66 (1.14)	2.40 (1.02)	1.77+
Q3.もめごとが起こった時、気安く相談に行ける友だち	2.18 (0.95)	1.97 (0.97)	1.64
Q4.さびしい時に電話をしたり、訪ねていっておしゃべりできる友だち	2.29 (1.09)	2.02 (0.99)	1.92+
Q5.お金が必要になったとき、気がねなく借りられる友だち	1.64 (0.84)	1.69 (0.87)	0.49
Q6.あなたのことをかってくれたり、高く評価してくれる友だち	2.60 (1.00)	2.27 (1.04)	2.46*
Q7.心配事や不安があるときに親身に助言してくれる友だち	2.37 (0.78)	2.19 (0.70)	1.32
Q8.家族以外で100%信用できる友だち	1.94 (0.90)	1.86 (0.99)	0.68
Q9.買い物につきあってくれる友だち	1.93 (1.03)	1.87 (0.96)	0.45
Q10.レジャーや映画に行く友だち	2.43 (1.17)	2.08 (1.03)	2.38*
尺度値	22.26 (8.56)	20.34 (8.53)	1.67+
人 数	121	104	

注) 5段階評定：かなりの数いる (5) ~まったくいない (1)

() =SD, + $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

Table 2 自尊感情の高低からみた交友サイズ（親密度別の友人数）

	自尊感情		t 値
	高 群	低 群	
＜同性関係＞			
非常に親しい友だち	3.48 (2.52)	2.78 (2.37)	2.14*
かなり親しい友だち	2.46 (2.07)	2.59 (2.31)	0.45
まあ親しい友だち	1.02 (1.22)	1.34 (1.62)	1.69+
友だちの総数	6.90 (2.54)	6.72 (2.85)	0.50
＜異性関係＞			
非常に親しい友だち	0.92 (1.14)	0.45 (0.65)	3.69***
かなり親しい友だち	0.81 (1.28)	0.54 (0.89)	1.77+
まあ親しい友だち	0.82 (1.24)	0.69 (1.14)	0.79
友だちの総数	2.50 (2.20)	1.72 (1.79)	2.89**
人 数	121	104	

注) 数値は、「最近1ヶ月で行動を共にした友人数」の平均
() = SD , + $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

4. 交友サイズとサポートサイズ

Table 3は、同性・異性別に、交友サイズとサポートサイズの相関係数を示したものである。同性関係では、サポートサイズと友人の総数との相関もみられたが ($r = .379, p < .001$)、最も相関が高かったのは、“非常に親しい友だち”の数との相関であり ($r = .472, p < .001$)、親密度の低い友人の数との相関は低かった。これらの結果は、同性のサポートサイズに親密度の高い友人の数が反映されていることを示している。なお、異性関係でもサポートサイズは交友サイズと高い相関を示したが、交友サイズの小ささ（平均2.14人）から、この相関は親密な異性の“有無”によるものと考えられる。そこで恋人やBFの「いる群」と「いない群」のサポートサイズを比較したところ、前者は後者よりも得点が有意に高かった（いる群23.82 ($SD = 7.75$) vs いない群19.55 ($SD = 8.74$): $t(223) = 3.79, p < .001$)。この結果は、恋人・BFの有無もサポートサイズに反映していることを示している。

5. 3つの変数の偏相関分析

以上の相関分析を通して、自尊感情やサポートサイズと強く関連しているのは、交友サイズ全体ではなく、その中の親密度の高い友人の数であることが明らかになった。そこで、この数を交友サイズの変数とし、自尊感情、サポートサイズの3変数間の偏相関係数（残り1変数の効果を統

Table 3 交友サイズ(親密度別)とサポートサイズの相関

	同性	異性
非常に親しい友だち	.472***	.479***
かなり親しい友だち	.069	.480***
まあ親しい友だち	-.196**	.218**
友だちの総数	.379***	.595***

注) ** $p < .01$, *** $p < .001$.

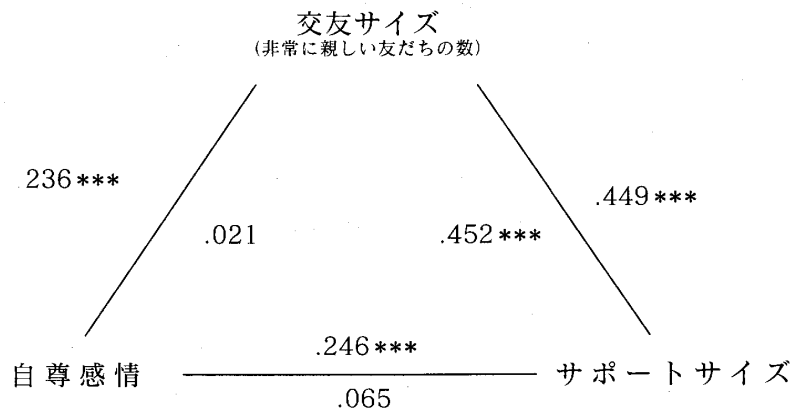


Figure 1. 自尊感情・交友サイズ・サポートサイズ間の偏相関係数
注) 内側の数値は同性関係、外側の数値は異性関係。*** $p < .001$.

制)を算出した。その結果、Figure 1に示すように、同性関係では、交友サイズとサポートサイズ、サポートサイズと自尊感情に相関が認められたが、自尊感情と交友サイズの相関は無相関になった (.153→.021)。この結果は、親密な友人の数が、直接的に自尊感情と結びついているのではなく、サポートサイズを経て自尊感情に影響していることを示唆している。これに対して異性関係では、自尊感情と交友サイズ、交友サイズとサポートサイズに相関が認められたが、自尊感情とサポートサイズの相関は無相関となった (.195→.065)。この結果は、自尊感情とサポートサイズの相関は見かけのものであり、恋人・BFといった親密な関係の成立が、一方で自尊感情を促進し、他方でサポートサイズに影響することを示唆している。

考 察

本研究では、(1)自尊感情とサポートサイズとの相関を確かめ、(2)これら2つの変数が、現実の交友関係（親密度別にみた交友サイズ）とどのように関連しているのかを検討した。以下、同性関係と異性関係に分けて結果を整理しながら考察を行う。

まず同性関係に関しては、自尊感情高群が低群よりも、サポートサイズ得点が高かったことや、両者の間に一定の相関が認められたことから、自尊感情が友人たちに受容されている感覚と関連していることが確かめられた。この結果は、Leary et al. (1995) の結果と合致したものであり、自尊感情が対人関係の適切さや良好さと結びついた感情であること（ソシオメーター仮説）を裏付けている。本研究では、さらに自尊感情やサポートサイズが、現実の交友関係（友人数や親密度）とどのように関連しているのかを検討した。その結果、自尊感情は交流している友人の総数ではなく、親密度の高い友人の数と相関をもっていること。そして親密度の高い友人の数は、サポートサイズと相関をもっていることが明らかになった。従来の研究も、自尊感情の高い者が肯定的で安定した友人関係をもっていることを示してきたが（Dubow & Ullman, 1989; 蘭, 1980; 菅, 1975）、本研究は、そうした知見を“親密度の高い友人の多さ”という形で切り出したものといえよう。また、自尊感情、サポートサイズ、交友サイズ（親密な同性友人の数）の3つの変数間で偏相関分析を行った結果、親密な友人たちの存在が、直接的に自尊感情と関連しているのではなく、友人たちに受容されている感覚を通して自尊感情と関連していることが示唆された。

次に異性関係については、自尊感情とサポートサイズとの相関は必ずしも高くなかった。これは異性関係の場合、一對一の親密な関係が重要な意味をもつため、他者からの受容感を友人数の主観的評価としてとらえたサポートサイズ指標には、自尊感情との相関が現れにくかったのだろう。しかしながら、分析の結果は、自尊感情高群が低群よりも、恋人やBFのいる者の割合が高いこと。そして恋人やBFのいる者が、いない者よりサポートサイズ得点が高いことを示していた。これらの結果は、親密な異性の有無も自尊感情と関連していることを示している。また、自尊感情、サポートサイズ、交友サイズ（親密な異性の数）の3変数間の偏相関分析の結果は、親密な異性関係が、一方で自尊感情を促進し、他方でサポートサイズに影響することを示唆するものであった。

このように本研究の一連の分析結果から、自尊感情とサポートサイズという個人内変数の相関は、現実(外)の親密な同性・異性関係の上に成立していることが明らかになった。自尊感情が、自分を受容してくれる友人数の主観的評価だけでなく、交流している友人の数や恋人・BFの有無とも相関をもっていたことは、自尊感情が周囲の人々との対人関係を色濃く反映した感情であることを示している。すでに述べたように、従来、自尊感情は資質や能力の自己評価に基づく感情として理解されてきたが、本研究の結果は、最近の自尊感情研究の動向と併せて、そうした見解に再考を促すものといえよう。

本研究は、自尊感情と友人関係の関連についていくつかの知見をもたらしたが、今後検討すべき課題も多い。とくに今回の調査では、対象者が女子学生に限られていた。友人関係にみられる性差を考慮すれば、男子学生との比較にも興味をもたれるところである。最後に本研究は、友人関係を個人を基点とするネットワークとしてとらえたが、その把握の仕方は、関係の数と親密度に限られていた。今後は、ネットワーク（友人）間のつながり、あるいは、ネットワークが一つ

の束(インフォーマルグループ)を形成しているかなどを把握しながら、自尊感情との関連を検討していくことが望まれる。

引用文献

- 蘭 千壽 1980 ソシオメトリック選択に及ぼすSelf-esteemの効果 九州大学教育学部紀要(教育心理学部門), 25, 53-59.
- Baumeister,R.F. 1998 The self. In D.T.Gilbert,S.T.Fiske,& G.Lindzey(Eds.), *The Handbook of Social Psychology*,4th.,Vol.1. New York:McGraw-Hill. Pp.680-740.
- Buhrmester,D.,& Furman,W. 1986 The changing functions of friends in childhood: A neo-sullivanian perspective. In V.J.Derlega,& B.A.Winstead(Eds.), *Friendship and Social Interaction*, Berlin: Springer-Verlag.
- Dubow,E.F.,& Ullman,D.G. 1989 Assessing social support in elementary school children: The survey of children's social support. *Journal of Clinical Child Psychology*, 18, 52-64.
- 遠藤辰雄 1992 セルフ・エスティームの心理学—自己価値の探求 ナカニシヤ出版
- 遠藤由美 1999 「自尊感情」を関係性からとらえ直す 実験社会心理学研究, 39, 150-167.
- Leary,M.R.,& Downs,D.L. 1995 Interpersonal functions of the self-esteem motive: The self-esteem system as a sociometer. In M.Kernis(Ed.), *Efficacy,Agency,and Self-Esteem*. New York: Plenum. Pp.123-144.
- Leary,M.R.,Tambor,E.S.,Terdal,S.T.,& Downs,D.L. 1995 Self-esteem as an interpersonal monitor: The sociometer hypothesis. *Journal of Personality and Social Psychology*, 68, 518-530.
- Rosenberg,M. 1965 *Society and the Adolescent Self-Image*. Princeton : Princeton University Press.
- Rosenberg,M. 1986 Self-concept from middle childhood through adolescence. In J.Suls,& A.G.Greenwald(Eds.), *Psychological Perspectives on the Self*, Vol.3. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates. Pp.107-136.
- 菅佐和子 1975 Self-esteemと対他者関係に関する一研究—青年期を対象として— 教育心理学研究, 23, 224-229.
- 浦 光博 1992 セレクション社会心理学8 支えあう人と人—ソーシャル・サポートの社会心理学 サイエンス社
- 浦 光博・南 隆男・稲葉昭英 1989 ソーシャル・サポート研究：研究の新しい流れと将来の展望 社会心理学研究, 4, 78-90.
- 山本真理子・松井 豊・山成由紀子 1982 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-68.